## 0.1 標準固有値問題

標準固有値問題 
$$Ax = \lambda x \quad (x \neq 0)$$
 一般化固有値問題  $Ax = \lambda Gx \quad (x \neq 0)$ 

ただし一般化固有値問題においてGは正定値対称行列である.

# 0.2 線形空間と双対空間

線形空間 V 上の線形写像 f とは, $f:V\to\mathbb{R}$  であって以下を満たすものである.

$$\begin{cases} f(x+y) = f(x) + f(y) & \forall x,y \in V \\ f(\alpha x) = \alpha f(x) & \forall \alpha \in \mathbb{R}, \forall x \in V \end{cases}$$

定義 1 V の双対空間  $V^*$  とは以下のように V 上の線形写像全体のなす集合である.

$$V^* = \{ f : V \to \mathbb{R}^| f$$
は線形写像 \}

双対性を表す内積として以下のように <,> をもちいる.

$$x \in V$$
,  $f \in V^*$ のとき  $f(x) = \langle f, x \rangle$ 

各 $x \in V$  に対して

$$\phi_x: V^* \to \mathbb{R} \quad (f \in V^*, \langle f, x \rangle \in \mathbb{R})$$
 $\phi_x(f) = \langle f, x \rangle$ 
 $\phi_x \in V^{**} \quad ((V^*)^* = V^{**} \succeq \text{かく})$ 

このとき  $V \to V^{**}(x \in V, \phi_x \in V^{**})$  を考えると  $V \subseteq V^{**}$  で一般には  $V \neq V^{**}$ 

$$V$$
が有限次元空間のとき  $\begin{cases} V \simeq \mathbb{R}^n \\ V^* \simeq \mathbb{R}^n \\ V^{**} \simeq \mathbb{R}^n \end{cases}$   $V$ がノルム空間のとき  $\begin{cases} V^*$ はBanach空間  $V^{**}$ もBanach空間 でも $V^{**} \simeq V$ とは限らない  $V$ がHilbert空間  $\Rightarrow V \simeq V^* \simeq V^{**}$ 

ここでノルム空間はノルムが定義されたベクトル空間, Banach 空間は完備なノルム空間,Hilbert 空間はユークリッド空間の拡張である.

# 0.3 pairing と内積

$$\langle f, x \rangle$$
  $\langle , \rangle : V \times V^* \to \mathbb{R}$   
 $(x, y)_G$   $(,) : V \times V \to \mathbb{R}$ 

ここで正定値対称行列  $G:V \to V^*$  を用いると

$$(x,y)_G = \langle x, Gx \rangle$$
  
 $\|x\|_G = \sqrt{\langle x, Gx \rangle}$ 

# 1 行列の標準形

## 1.1 対角化

A が実対称行列  $A^{\mathrm{T}}=A($ エルミート行列  $A^{H}=A,$  共役転置) のとき固有値は実数で n 個存在し、固有ベクトルは直交化できる.

∃直交行列またはユニタリ行列
$$Q$$
について  $Q^*AQ = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix} (Q^* = Q^{\mathrm{T}} \text{or } Q^H)$ 

このように対角化できる行列はどんな行列か?

#### 定義 2

$$A$$
が正規行列  $\Leftrightarrow A^*A = AA^*$   
 $A$ がユニタリ(直交)行列  $\Leftrightarrow A^*A = I$ 

### 定理 1

$$A$$
が正規行列  $\Leftrightarrow \exists Q$ (ユニタリ行列)を用いて対角化可能 :  $Q^*AQ = \begin{pmatrix} \lambda_1 & & 0 \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix}$ 

 $\Leftarrow$  を示す. 対角行列を D とすると  $DD^*=D^*D$  であり  $A=QDQ^*$  だから  $A^*=(QDQ^*)^*=Q^*D^*Q^*=QD^*Q^*$  なので計算すれば  $AA^*=A^*A$  が示せる.

 $\Rightarrow$  は A の Schur 分解すると対角行列となることを示せば十分.

**定理 2** (正規とは限らない)A に対して  $\exists Q$ (ユニタリ) :  $Q^*AQ$ (Schur 分解) したものは上三角行列で対角要素は A の固有値になる.

証明は帰納法による. $Ax_1=\lambda_1x_1$   $\|x_1\|=1$  ととる. このとき  $Q=(x_1|U)$  とする.  $U^*x_1=0(U$ の各列は $x_1$ と直交しているので)

$$AQ = \boxed{\lambda x_1 \mid AU}$$

なので

$$Q^*AQ = \begin{pmatrix} x_1^* \\ U^* \end{pmatrix} A(x_1|U) = \begin{pmatrix} x_1^* \\ U^* \end{pmatrix} (\lambda_1 x_1|AU)$$
$$= \begin{pmatrix} x_1^* \lambda x_1 & x_1^* AU \\ U^* \lambda_1 x_1 & U^* AU \end{pmatrix}$$
$$= \begin{vmatrix} \lambda_1 & x_1^* AU \\ 0 & U^* AU \end{vmatrix}$$

最後に  $\|x\|=1$ および $U^*x_1=0$  を用いた.これより左下の成分は 0 であり繰り返せば上三角行列になることが示される.

A が正規行列  $(A^*A=AA^*)$  ならば Schur 分解した  $Q^*AQ=R$  の R も正規である  $(R^*R=RR^*)$ (計算すると  $RR^*=R^*R=Q^*AA^*Q$  になるので). したがって  $RR^*=R^*R$  を書き下すと

$$\begin{bmatrix} r_{11} & \cdots & r_{1n} \\ \vdots & & \\ 0 & & r_{nn} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \overline{r_{11}} & 0 \\ \vdots & & \\ \overline{r_{1n}} & \overline{r_{nn}} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \overline{r_{11}} & 0 \\ \vdots & & \\ \overline{r_{1n}} & \overline{r_{nn}} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} r_{11} & \cdots & r_{1n} \\ 0 & & r_{nn} \end{bmatrix}$$

上の式で (1,1) 成分を取り出すと  $||r_{11}||^2 + \cdots + ||r_{1n}||^2 = ||r_{11}||^2$  になるので  $||r_{12}||^2 + \cdots + ||r_{1n}||^2 = 0$  である. したがって R は対角行列である.

## 1.2 いろいろな分解

Aが $n \times n$ 行列  $\Leftrightarrow \exists Q$ (ユニタリ行列)について $Q^*AQ = \bot三角行列(Schur分解)$ 

$$A$$
が正規行列  $\Leftrightarrow$   $\exists Q$ (ユニタリ行列)について $Q^*AQ = \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix}$  (固有値分解) 
$$A O n \\ \text{個の固有ベクトルが独立} \Leftrightarrow \exists X (正則) について $X^{-1}AX = \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix}$  (固有値は実数) 
$$A \mathring{m} x \mathcal{n} = - \mathsf{n} + \mathsf{n} +$$$$

# 1.3 Sylvester 標準形

#### 1.3.1 定義

正則行列 S を用いて Sylvester 標準形は以下のように定義される.

1の個数をs,-1の個数をtとすると $s+t=\operatorname{rank} A$ である.

定理 3 (s,t,n-s-t) を Sylvester の符号指数と定義すると、以下の Sylvester の慣性則が成り立つ。 Sylvester の慣性則: $S^*AS(S$ は正則) の形の変換で符号指数が変わらない。

### 1.3.2 作り方

 $\lambda_{s+1} \cdots \lambda_n < 0$ ) 以下のように  $\hat{S}$  を定めると  $S^*AS$  は Sylvester 標準形になる.

$$S = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{\lambda_1} & & & & & & \\ & \ddots & & & & & \\ & & 1/\sqrt{\lambda_n} & & & & \\ & & & 1 & & \\ & & 0 & & & \ddots & \\ & & & & 1 \end{pmatrix}$$